

令和 4 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ビョウ ケイイン
氏 名 苗 馨允

研究期間 令和 4 年度

研究課題名 国際財務報告基準 (IFRS) の適用が日本企業の会計情報の質に与える影響

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	苗馨允	現代マネジメント学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

日本では、2010 年 3 月期以降の連結財務諸表の作成に IFRS の適用が認められるようになった。その後、多くの先行研究が IFRS の適用が日本企業の会計情報の質に与える影響を調査してきた。しかし、これらの先行研究では、純資産や純利益等の総額数値だけが注目され、個々の会計基準の差異が価値関連性に影響を与えるのか否かは検証されていない。そこで本研究は、純資産や純利益だけではなく、日本基準と IFRS の個々の会計基準の差異が、日本基準に基づく会計情報に対して、追加的な価値関連性を有するか否かについて調査することを主目的とする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究の推進方策は以下の通りである。まず、現行の日本基準と IFRS との間、基礎にある考え方の違いを先行研究に基づいて整理した。次に、初度適用時に掲示された調整表に基づいて、日本基準と IFRS ベースのそれぞれの純資産、純利益、および主要な会計項目の日本基準から IFRS への調整額を手作業で収集した。その後、これらのデータおよび価値関連性の研究デザインを用いて、IFRS と日本基準の純資産の差額、純利益の差額、および個々の会計基準の差異に起因する純資産の調整額は、日本基準の会計数値に対して、増分の価値関連性を有するか否かを検証した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

研究成果の概要は以下の通りである。

第一に、日本基準とIFRSの基本的な考え方の相違を次のようにまとめた。①IFRSでは、日本基準に比べて、資産・負債の認識が拡大される可能性があること、②IFRSでは、日本基準に比べて、公正価値測定の実用が拡張される可能性があること、③IFRSでは、日本基準に比べて、無条件保守主義に基づく会計処理が少ない可能性があること、④IFRSでは、日本基準に比べて、包括利益がより重視されること。

第二に、調整額の総額について、IFRSと日本基準ベースの純資産の調整額(総額)は追加的な価値関連性を有さないが、純利益の調整額(総額)は有意な負の価値関連性を有することを明らかにした。この結果から、株価の価値評価上、IFRSベースの純資産と日本基準ベースの純資産と有意な差がないが、日本基準ベースの純利益がIFRSベースの純利益より有用な情報を提供するといえる。

第三に、個々の会計基準について、金融商品、有形固定資産、従業員給付、引当金、および無形資産に関する純資産調整額の追加的な価値関連性は確認できなかったが、のれん、収益認識、税効果会計、および減損に関する純資産調整額は追加的な正の価値関連性を有することを明らかにした。

上記のように、4つの会計基準に起因する調整額は追加的な正の価値関連性を有することを確定できているが、なぜIFRSベースの会計数値が日本基準ベースに比べて、より有用な情報を提供するのか、その理由を特定することはできていない。これは今後の課題として残っている。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①IFRS 任意適用	②価値関連性	③会計基準の差異	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果は、以下のように、『日本的会計諸制度の変遷と課題』(国際会計研究学会研究グループ最終報告書研究代表者・角ヶ谷典幸)の一部としてまとめられ、期間限定で公開された。
・苗馨允・金鐘勲・角ヶ谷典幸「IFRSの任意適用と会計情報の価値関連性に関する研究」148-163頁。

また、上記研究成果の一部は国際会計研究学会第39回研究大会(2022年10月9日)で報告した。

上記の最終報告書と報告を加筆修正したうえ、学術誌に投稿している。